



岩城少年自然の家だより



自然は友だち

青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2023年11月）…1,128,271名

令和5年度の利用者数（～11月末）…8,883名（11月の利用者数…383名）

2023.12.22

秋田県立岩城少年自然の家

岩城少年自然の家 創立40周年記念式典



11月24日（金）に岩城少年自然の家 創立40周年記念式典がご来賓、県中央管内の小・中学校校長、旧職員など66名の皆様にご臨席いただいて挙行されました。

式では、所長の式辞に続いて、秋田県議会教育公安委員会副委員長の瓜生 望 様、由利本荘市副市長の佐々木 司 様からのご祝辞をいただきました。また、長年功績のあった山なみの会会長の 神長 侃 様へ感謝状を贈呈いたしました。

そして、地元の児童・生徒のお二人に所の思い出を発表していただきました。ここに紹介いたします。

助け合った宿泊体験学習

由利本荘市立岩城小学校 5年 渡會 咲仁 さん

ぼくたち岩城小学校の五年生が岩城少年自然の家で宿泊体験学習をしたのが今年の6月15・16日でした。少しずつ夏に向かっていた時期でもあるので、過ごしやすい気温だったなと思い返しています。

ぼくにとって、5年生のみんなと宿泊するのは初めてのことだったので、少しきんちょうしていたけれど、たくさん楽しめた二日間になりました。これから印象に残った出来事を伝えていきます。

一番心に残ったことは、野外炊飯でした。ぼくたちの学校では、カレーを作るのになっていました。カレーを家で作ることはあっても、実際に火をおこしてカレーを作ることはないの、「うまくできるかな」と心配していました。そして、班ごとにカレーを作る際、ぼくはかまど係になりました。家族と一緒にバーベキューをするとき、お父さんと火をおこしたことがあったので、係の仕事に関しては自信がありました。自然の家のスタッフの方の話聞いた後、油のついている新聞紙を丸め、小さな細い木を組んでライターで火をつけました。その後、大きな木を入れ、友達といっしょけんめい風を送り、火に勢いをつけました。おかげで安定して火力を出すことができました。



その後、同じ班の友達が出てきてくれた飯ごうをあみに置いて待つと、スタッフの方の説明にあったように、飯ごうから泡がグツグツとあふれ出てきました。

「炊けた!」と興奮して叫んだのを今でも覚えています。少しおいてから飯ごうのふたを開けてみると、おいしそうな匂いがフワッと出てきて、白く輝くお米が出来上がっていました。カレーの鍋も火にかけて、じゃがいもがやわらかくなるまで煮込みました。

そして、いよいよご飯の時間。カレー粉を混ぜて出来上がり。とてもおなかが減っていたので、「やったあ〜」と叫びました。飯ごうからご飯を盛るとおこげができていました。カレーはちょっと水が多すぎたのか、シャバシャバのスープカレーのようになってしまいました。ただ食べてみると、おいしかったです。いつものカレーづくりより大変で手間がかかったけれど、その分みんなで協力して作ったカレーは何倍もおいしかったです。

二つ目に印象に残ったのは、キャンプファイヤーです。夜の暗闇の中、手作りトーチ棒に火をつけて、ゆらゆらと燃えるほのおは幻想的でした。ぼくは、キャンプファイヤーの儀式でみんなに火を移す営火係だったので、「絶対に成功させるぞ」と意気込み、役割を全うすることができました。

あのとき誓った友達と助け合う友情。体に気を付けて生活していく健康。社会のために自分の力を発揮する奉仕。様々なことにチャレンジし、継続していく努力。この4つの誓いを意識して6年生に向かって頑張ります。

岩城少年自然の家の宿泊体験学習では、普段できないことをたくさん経験しました。自然の家のスタッフの皆さん、ありがとうございました。ぼく一人ではできなかったこともたくさんありました。友達と協力して取り組めたこの経験をいかして、これからも友達と助け合っていきたいです。

最後に、岩城少年自然の家では、一年間を通して様々なイベントを行っているので、機会があれば参加して楽しみたいと思っています。

岩城少年自然の家での思い出

由利本荘市立岩城中学校 2年 田口 暉晴^{きはる}さん

僕にとって岩城少年自然の家は、通っている中学校から車で10分ほどの距離にあることや昨年まで岩城中学校に勤務していた先生がいらっしゃることもあり、親しみのある場所の一つです。

これまでに三回、岩城少年自然の家で過ごす機会がありました。これからその時の活動で感じたことや印象に残っていることを話したいと思います。

初めて少年自然の家を訪れたのは、僕が小学5年生の時です。学校から離れて一泊二日で過ごす計画に、どんな活動をするのかな、友達といっしょに過ごすのは楽しそうだなと期待に胸が膨らんでいました。でも、コロナ感染症がまだ心配される時期だったため、日帰りの活動に変更になりました。とても残念でしたが、その中で実施できたポイントラリーのことはとても印象に残っています。ウサギコースという名前のコースは、途中で険しいところがあり、ゴールまで一時間以上かかりました。グループの人と相談しながら問題に答えたり、話したりしながら歩き、やっとの思いでゴールに着いたとき大きな達成感がありました。それ以外にも工作などをして楽しんだことも覚えています。

二回目は、今年の5月に2年生全員で訪れたスプリングセミナーです。その日は、近隣の企業の職場見学をした後、自然の家に向かいました。夕食後、2年生の保護者6名を招いて、インタビュー形式で現在就いている職業についてたくさんのお話を聞くことができました。将来に向けて真剣に考え始める良い機会になりました。

翌日は、「プロジェクトアドベンチャー」に取り組み、仲間と協力してピンポン球やビー玉を竹の半割れに乗せて移動させゴールを目指したり、出されたお題について同じ考えをもつ人同士が集まったりする活動をしました。これらの活動を通して、自分の思いを相手に伝えることや相手の思いをくみ取ることの大切さや難しさに改めて気づかされました。また、クラスメイトと宿泊する体験ができたことも印象深いです。

三回目は、夏休み中に実施した職場体験学習の時でした。2年生8人が二日間お世話になったのですが、これまでの二回とは違う体験になりました。初日は自然の家の利用者が使用する布団を干したり、釣り竿などの活動で使用する用具類をきれいに磨いたりすることが主な活動でした。このときは、利用者が気持ちよく使えるように心がけて作業をしました。二日目は、ベッドメイキングや野外炊飯を体験しました。野外炊飯の経験が少なかったため、始まる前からとてもワクワクしていました。食材を切る係と火おこし係の二班に分かれて準備を進めたのですが、僕は火おこしを担当しました。必死になって火をおこしましたが、その工程が僕にとっては、とても新鮮で興味を持って取り組むことができました。それぞれが任せられた役割を果たして出来上がった豚汁の味は格別だったのを覚えています。

このように岩城少年自然の家を三回訪れましたが、仲間と協力して何かを成し遂げる喜びを実感したこと、一緒に活動したり宿泊したりして友情を深め合ったこと、友達の良さに改めて気づいたこと、自然の家の方々の仕事を体験してやりがいや仕事への思いを知ったことなど、たくさんのお話を学びました。自分の住む地域にこのように素晴らしい体験のできる場所があることは、とても恵まれていることだと思います。自然の家で経験できたことやいろいろ学んだことをこれからも学校や家での生活に生かし、自分の将来につなげていきたいと思っています。



1月の予定

(主催事業)

わんぱくキャンプ(冬) 11日(木)～13日(土)

※募集は締め切りました。

オープンデー 21日(日)

※創作プログラム、特別プログラムがあります。

ファミリーキャンプ(冬) 27日(土)～28日(日)

(受入団体等)

かんば保育園 16(火)、18日(木)、25日(木)

亀田保育園 19日(金)、23日(火)

ふれんず秋田南教室 20日(土)

(出前講座)

木のおもちや館 7日(日)

土崎カトリック学童クラブ 9日(火)

令和5年は5月に新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が5類感染症となり、手洗いや手指消毒など感染症予防は継続いたしましたが、活動内容はコロナ禍前に戻すことができました。利用者の皆様には、ご理解とご協力をいただき、安心・安全を確保した活動ができましたことに感謝申し上げます。来る令和6年も、皆様に満足いただける事業の運営に努めてまいります。よろしくお願いたします。(須田)

ホームページや
Facebookで
情報をチェック!



岩城少年自然の家HP 岩城少年自然の家FB